

令和6年度使用教科用図書の採択結果と理由

採択出版社	主な採択理由（内容・表現、構成・配列、分量、その他）
<p>国語</p> <p>東京書籍株式会社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・単元のはじめに「思い出そう」という二次元コードがあり、既習の「言葉の力」が紹介されている。 ・第2学年以上で、読み比べて考えるための教材が取り上げられている。「読むこと」で学んだ情報の扱い方を生かして「書くこと」に取り組めるように「読むこと」と「書くこと」の間に「情報のとびら」が掲載されており、子供自身で情報を扱える単元構成になっている。 ・全領域の単元冒頭において、学ぶ内容が「言葉の力」で示されており、その単元で身につける力がはっきり示されている。また、巻末で領域・系統ごとに「言葉の力」が示されており、系統性を確認することができる。系統性に分けて教材が配列されていることにより、身につけた「言葉の力」をつなげた学習展開がしやすくなっている。 ・デジタルノートの作り方が巻頭に見開きで示され、ICT活用による学習記録の在り方を示している。また、各単元では、全学年総数600を越える二次元コードが準備され、巻末には学習に役立つQRコンテンツを紹介した「デジタル資料を活用しよう」も掲載されており、子供自身で多様なコンテンツにアクセスし、自分で学びを広げることができる。
<p>書写</p> <p>光村図書出版株式会社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的・基本的な知識及び技能の確実な定着を図るために、第1学年の巻頭には、いい姿勢を維持し集中して書くための身体を整える「しょしゃたいそう」、「じをかくしせい」に加えて「たぶれつとをつかうしせい」が示されている。 ・表現する力を育む言語活動や情報活用能力、問題発見・解決能力を育成するために、第6学年巻末、及び、写真・動画のある単元については全学年、二次元コードが示されている。 ・第2・3学年に「なぞとき」というテーマで「整った文字を書くための決まりを見つけよう」という問題発見・解決する活動があり、第5学年では、書く時の速さや文字の大きさ、配列を意識した新聞の書き方、第6学年では、情報をわかりやすく伝えるための工夫が取り上げられ、表現する力を育む言語活動や情報活用能力の育成を目指した内容となっている。 ・二次元コードの全学年の総コンテンツ数が363点あり、子供自身がICTを活用して学びを深めることができる。
<p>社会</p> <p>東京書籍株式会社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「見方・考え方」を表すキャラクターのイラストと問いが見開きの適所に提示されていることにより、働かせる視点や方法がわかりやすい。 ・「まなびのポイント」「ふり返ろう」といった学習の進め方が第3・4学年では各見開きに、第5・6学年では主な見開きに例示されていることにより、学習内容や調べ方を振り返りやすい。 ・二次元コードを読み取って各単元を概観できる動画を視聴できることにより、問題解決的な学習の見通しをもちやすい。 ・第5・6学年の教科書がそれぞれに二巻に分けられていることにより、必要な資料を見つけやすい。 ・選択単元のそれぞれに学習問題が位置付けられて十分な量の資料が掲載されていることにより、どれを選択しても問題解決的な学習を進めやすい。
<p>地図帳</p> <p>株式会社 帝国書院</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・方位や地図記号などの地図のやくそく、記号凡例やさくいんなどの地図帳の使い方などが巻頭に端的な文章で解説されていることにより、地図の使い方を理解しやすい。 ・「地図マスターへの道」として、地図に関する問いが全100問掲載されていることにより、地図活用の知識・技能を身に付けやすい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・地図の見方を示唆したり、活用を促したりするキャラクターのイラストが提示されていることによって、土地利用や交通などの調べる視点をもちやすい。 ・各見開きの右ページ端には、「地図のやくそく」「地図帳の使い方」「広く見わたす地図」「日本の領土とそのまわり」「各地方」「世界」「資料図」「さくいん」といったテーマごとに色分けされたインデックスが設けられていることにより、目的のページを探しやすい。 ・さくいんの都道府県名・県庁所在地名・国名は赤字、日本の歴史地名は青字、世界遺産は緑字に統一されていることにより、地名を探しやすい。
<p>算数</p> <p>株式会社 新興出版社 啓林館</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・数学的な見方・考え方を意識しやすいように、キャラクターの発言の中に価値づけたい見方・考え方の部分をマーカーで強調して示している。また、その発言を基にして説明したり話し合ったりする学習活動を設定している。 ・主体的な学びにつながるよう素朴な問いや気づきを子供の表現に近い言葉で「めばえ」として掲載し、「めあて」や「まとめ」の活動につなげるようにしている。また、個々の児童の学びに応じて既習の確認と反復練習が主体的に行えるようデジタルコンテンツが用意され、具体物による操作活動とデジタル化すると効果的な操作活動に分けて設定している。 ・読みやすい文字の大きさやフォント、問題理解につながりやすい文節になっている。紙面の内容を判別しやすく、視覚の個人差に配慮した配色・デザインのグラフや写真にしている。 ・SDGs やプログラミング、文化的な建物やデータを扱った学習活動が配置されている。また、外国ルーツの方やジェンダー、福祉について配慮した様々な特徴を持つキャラクターを掲載している。 ・よりよい考え方が何かを探究的に学習できるように、単元の複数の問題において考え方を比較したり検討したりできる多様な考えを扱っている。
<p>理科</p> <p>大日本図書 株式会社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決の「問題を見出す」「問題」「予想」などの過程がイラストや写真、登場人物のやりとりからわかりやすく位置付けられている。 ・「問題の見出し」「考察や結論の導出」の際に「理科の見方・考え方」を働かせやすくするために、留意したい内容を示した「ココに注目」が単元毎に設けられている。 ・実生活の中で活用されている場面を取り上げ、SDGs とのつながりが分かるようにマークを位置付けることで、学習内容が広く社会の役に立っていることや世界が直面している問題を感じやすくなっている。 ・二次元コードは全てページ下部に統一されているため見つけやすく、実験方法や結果、生活につながる内容が確認しやすくなっている。 ・A4サイズに大判化されたことにより自然事象、結果などの写真やイラストが見やすくなっただけでなく、それらと文章がバランス良く配置されている。
<p>生活</p> <p>東京書籍 株式会社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・校内を探検する中で、あいさつや質問のマナー、安全について考えること等、体験を通して生活上必要な力を身に付けるための活動が設定されている。 ・観察活動に必要な技能が身に付けられるよう、観察カードの書き方や観察する時の視点が示されている。 ・各単元の終わりには、カードや新聞、パンフレット等多様な方法で学びを伝える活動が紹介されている。 ・全体を通して、イラストを用いて生活科の「見方・考え方」を生かした活動のヒントが示されている。 ・「学びをふかめる」では、気付きの質が高まる姿が具体化され、深い学びの過程が示されている。 ・ICT 活用例が具体的に示されている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・季節の流れを軸に、内容のまとまりごとに単元が配列され、上巻では学校やその周辺、下巻では地域全体へと活動範囲が広がるように学習活動が構成されている。
<p>音楽</p> <p>株式会社 教育芸術社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学年の発達段階に応じた音楽を形づくっている要素や仕組みについての言葉、音楽記号、感情を表す言葉等が巻末にのせられていて確認しやすくなっている。 ・知識や技能を活用して表現や鑑賞をするための学習では、「考える」「見つける」「歌う」等のマークが示されているとともに大切にしたいポイントも書かれているため、見通しをもって学習をしたり、振り返ったりしやすくなっている。 ・「育てよう」のコーナーが設定されており、短いリズムパターンや旋律で音楽の力を育てるための活動が繰り返し行える。 ・歌唱・器楽・音楽づくり・鑑賞教材が題材や年間計画内でバランスよく配列されおり、歌唱教材が充実している。 ・楽譜だけではなく、図形楽譜やイラスト、図等、視覚的に捉えられる資料が適切に掲載されている。 ・学習に役立つ情報をウェブサイトで見られるように二次元コードが示されている。
<p>図画工作</p> <p>日本文教出版 株式会社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「図工のみかた」で、発想や構想、表現のヒントになるような投げかけが、児童の目を引く鮮やかな写真やイラストと共に示されている。 ・「教科書美術館」では、表現の題材と一体的に扱える鑑賞作品が取り上げられている。また高学年では、考えるための技法を使って表し方を整理する方法も紹介されている。 ・以前の教科書に比べて、題材で使用するプラ材が約70%削減されているなど、SDGsや環境への配慮もなされている。 ・日本各地の造形活動の事例や美術館、作品などを偏りなく数多く取り上げている。世界の作品も約50点取り上げられており、それらの多くが二次元コードとしても紹介されている。 ・画像や動画といった「見る」ための二次元コードが1000以上ある。またアニメーション制作やアートカード鑑賞のアプリといった「使う」ための二次元コードも充実している。それらとは別に、児童の作品例が1300以上ある。
<p>家庭</p> <p>開隆堂出版 株式会社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・調理や製作等の実習手順が、活動している児童視点の写真とともに、見開きページで横に流れるように示されている。手順が分かりにくいところなどは、写真ではなくイラストで示されており、細部を理解しやすくなっている。 ・実習中にいつでも確認できるように、裏表紙に切り方の一覧表が掲載されている。 ・題材ごとに「生かす・深める」が設けられており、学習内容を自分の家庭生活にどう生かしていくか考えを深めることにつなげやすくなっている。 ・題材の導入に、生活の中から問題を発見することを促す写真や文が掲載されている。 ・学習内容は第5学年で11題材、第6学年で9題材から構成されている。全題材を通して、問題解決的な学習に取り組むために、3ステップで学習を進めるよう構成されている。 ・5年生では「着方の工夫で快適に」を扱い、6年生では「衣服の手入れで快適に」を扱うなど、衣生活に関する学習内容が細かく分かれて題材に構成されている。題材を分けて学ぶことで衣生活をよりよくしていくために必要なことを、それぞれの題材に合った見方・考え方で考えやすくなっている。
<p>保健</p> <p>株式会社 大修館書店</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・表紙裏の「生活の中の保健をさがそう」のコーナーで、町の様子やニュース、身の回りのことがらと学習内容との関連が取り上げられており、実生活とのつながりを意識しやすい。 ・「体育の窓」を中心に、運動領域の学習内容が多く取り上げられており、保健領域と運動領域の関連を意識しやすくなっている。 ・「男女の体つきのちがい」では、モデルが着衣状態で、正面と横向きの写真を使用しており、

	<p>学習内容を理解しやすいだけでなく、思春期の児童への配慮がなされている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・映像資料が充実しており、それぞれの動画に音声での解説がついているので、児童が自分たちで調べ学習を進めることに適している。 ・各時間の最後には学習内容を確認する「保健クイズにトライ」にアクセスできる二次元コードが用意されており、学習した内容を児童自身で振り返りやすくなっている。
<p>特別の教科 道徳</p> <p>光村図書 出版 株式会社</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を3つの大きなまとまりにテーマで分けて教材が配置されている。特に、1学期は全年で「他者との関わり・互いの違いを認め合う」というテーマになっている。 ・「いじめ・自然・情報・共に生きる」に関する内容を重点とし、複数の教材とコラムをセットにしたユニットとして提示されている。多様な道徳的価値について考えながら、自分がどんなことを大切にして生きていきたいかを考える学習活動ができるようにしている。特に、情報については、家庭で話し合う活動が二次元コードで読み取れる資料とともに示されており、家庭での取り組みも啓発している。 ・道徳科の学び方のコツを実践できる教材が巻頭に示されている。「自分に問いかけながら学ぶ」という、道徳科において大切な学び方を実践しやすくなっている。
<p>外国語</p> <p>株式会社 新興出版社 啓林館</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・重要表現の定着を図る Activity に向けて、具体的な場面や状況が与えられた言語活動が設定されている。 ・令和2年度版教科書から、単元構成をより学びやすいように変更されている。5年 Unit1 は新出の言語材料が多すぎず、3・4年で慣れ親しんだ表現も使える単元に変更されている。6年の Unit4、5 が同じような活動だったため、Unit4、5 を1つの単元に集約し、別の場面で過去の表現が使える、かつ Unit7（将来の夢・職業）に向けて準備ができる新たな Unit が加えられている。 ・学習指導要領で示された700語以上の語彙数を扱い、豊かなコミュニケーション活動ができるようにしている。 ・児童が見通しをもって学習が進められるように、Unit とびらには Unit 全体のめあて（GOAL）と各STEPのめあてが明示されている。また、達成度を確認しながら学習が進められるように、各STEPにバロメーター（できたかな）を配置している。Unitの目標をふり返ることができるように、各Unitの最後に Look Back（Unitの目標をふり返る）のコーナーが設定されている。 ・視覚特性を含めた、すべての人が見やすく、読みやすい紙面になっている。